

授業概要

租税法Ⅰでは、身近で重要な「税」について興味を持ってもらい、「租税法」の全体的なイメージを掴んでもらいましたが、租税法Ⅱでは、皆さんが卒業後も役立つように、会社実務における租税法との関わりの理解や、税理士等を目指す方への専門家としての足掛かりのために、専門書（入門レベル）を使用して、租税法の各々のテーマについて、もう一步踏み込んだ知識や考え方を身に付けてもらいます。

そして、租税法の知識や考え方を身に付けてもらうには、暗記や詰め込みではなく、自分自身で考えてみる事が大事なので、実際に起こった事案についても、何が問題となっていて、どのように判断すれば公平に課税されるか、ということ、皆さんとともに考え、自由に議論できる講義をします。

授業計画

第1回	租税法主義、租税公平主義(Chapter 1, Chapter 2)
第2回	租税法の歴史、法形成過程①(Chapter 3, Chapter 4<その1>)
第3回	法形成過程②、租税法の解釈(Chapter 4<その2>, Chapter 5)
第4回	所得税における所得の概念(Chapter 6)
第5回	所得税の納税義務者(Chapter 7)
第6回	所得税法のしくみ(Chapter 8)
第7回	所得税の収入金額①(Chapter 9<その1>)
第8回	所得税の収入金額②、所得税の費用控除①(Chapter 9<その2>, Chapter 10<その1>)
第9回	所得税の費用控除②(Chapter 10<その2>)
第10回	法人税の基礎(Chapter 12)
第11回	法人税の納税義務者(Chapter 13)
第12回	法人所得の意義(Chapter 14)
第13回	法人税の益金の額(Chapter 15)
第14回	法人税の損金の額①(Chapter 16<その1>)
第15回	法人税の損金の額②(Chapter 16<その2>)
第16回	期末試験

到達目標

1. 租税法の基本的な考え方と、主要な論点を理解できる。
2. 会社実務や日常生活と租税法の関わりについて理解できる。
3. 所得税、法人税、消費税、相続税について、どのような論点が議論されているかを理解できる。

履修上の注意

租税法の入門的講義は「租税法Ⅰ」で行うため、「租税法Ⅰ」履修者、もしくはある程度「租税」の知識がある者がのぞましい。

予習・復習

予習は不要です。復習は、毎回授業の冒頭に配布するテキストのレジュメを熟読してください。

そして、本授業は、専門書の読み方の練習も兼ねているので、各々テキストのどこにレジュメの内容が書かれているかも確認してください。

翌週の授業の冒頭に、わからない点について、質問の時間を設けますので、遠慮なく質問してください。

評価方法

授業への積極的な参加と貢献が40%、学期末試験60%。

テキスト

- 教科書名：租税法入門 [第3版]
- 著者名：増井良啓
- 出版社名：有斐閣
- 出版年：2024年